移乗・移動

＜安全な移動環境を提供し、残存機能の維持及び気分転換を図っていただく＞

項目	内容	留意事項
１．利用者の情報把握	○主な疾患と障害の程度 ○使用している移動器具	・全身状態や動かせる範囲など、病気や障害の部位・程度を知る ・利用者に適した移動用具を用意し、安全性を点検する
２．環境整備	○生活空間の整備 ○移動に適した衣類の選択	・利用者が転倒しないように環境を整える ・衣類・履き物を観察し、必要に応じてアドバイスする
３．移乗	○ベッドから車椅子へ	・車椅子は、ベッドに対して３０度位の角度に置く ・ブレーキを確認し、フットレストを上げる ・車椅子へ移ることを告げる ・座位がとれる場合は、端座位になり、足の間に介助者の片足を入れる ・腰を十分に落とし、かけ声を掛けて立ち上がる ・体を回転させ、ゆっくりと車椅子に座る ・姿勢を整える
	○車椅子からベッドへ	・車椅子は、ベッドに対して３０度位の角度に置く ・ブレーキを確認し、フットレストを上げる ・ベッドへ移ることを告げる ・端座位になり、一方の手を背中から脇に回し、もう一方を膝の裏に差し入れる ・足をベッドに上げ、臥床する ・靴を脱ぎ、転落防止のためベッド柵を取り付ける
４．移動	○歩行 ○車椅子	・介助者は、利用者の患側に立つ ・杖歩行時は杖の反対側に立つ ・介助者の下に利用者が位置していることを頭に置いておく ・正しい座位がとれているか確認する ・車椅子を押すことを告げる ・周囲に気を配りながら、ゆっくりと静かに押す ・車椅子を止めて利用者から離れるときは、必ずブレーキを掛ける ・長時間車椅子に乗るときは、プッシュアップを行い、褥瘡を予防する
	○下り坂	・急な傾斜の下り坂は、進行方向に対して後ろ向きになり車椅子を受け止めるようにしてゆっくり進む
	○段差（登り）	・段差がある場合は、ティッピングレバーを踏み、前輪を浮かせ、段差に乗せる ・後輪を持ち上げて段差に乗せ、前進する
	○段差（下り）	・進行方向に対して後ろ向きになる ・後輪を浮かせ、車椅子を後ろに引き、静かに前輪をおろす ・必ず２人介助で行う
	○階段	・一人が車椅子の握りをもち、前輪を上げる ・もう一人はティッピングレバーの前部を持つ ・かき上げるようにして、後退で一段ずつ上り下りする ・後輪は一段ずつ階段につける

起因疾患別留意事項

○脳性麻痺	・不随意運動や緊張がある場合、手足が引っかからないように注意する ・姿勢保持が十分できなかったり、緊張・硬直を伴う場合、体幹にベルトをする ・身体にあった車椅子になるよう、補助クッションやコルセットを使用する ・食べこぼしなどで車椅子が汚れやすいので、掃除・点検を定期的に行う
○脳血管障害	・身体の障害にあった車椅子を提供し、残存機能を活かす
○視覚障害	・突発的に動き出すと不安と緊張感が増すので、必ず声掛けして動き始める
○進行性筋萎縮症	・筋力がないので、首がカクッとなってしまわないよう、しっかり首を支え、抱いて移動する
○リウマチ	・関節が固定し曲がらない利用者については、リクライニングになるものや、関節に負担がかからない車椅子にする ・体調の善し悪しの変動が激しく、周期的に悪くなることが多いので、体調に合わせて車椅子に乗るようにする
○脊髄損傷	・利用者の状態に合わせて、車椅子を工夫し、残存能力を活かし活動範囲を広げる